

目次 (延宝三年・五年不在)

題字 神谷 伊喜雄

はじめに
凡例

(一六七四) 延宝二 ^甲 年	……	一〇一
(一六七六) 延宝四 ^丙 年	……	一一三
(一六七八) 延宝六 ^戊 年	……	一二九
(一六七九) 延宝七 ^己 年	……	一三七
(一七八〇) 延宝八 ^庚 年	……	一四五
(一七八一) 延宝九 ^辛 年	……	一五二
天和元 酉年	……	一五九
―九月廿九日改元―		

あとがき	……	七五六
執筆者	……	宮澤 大彌・神谷伊喜雄
事務局	……	山本 宏一・宮沢 久典 曾山 恵理・福嶋 嗣 那須野雅好

(一六七四)

延宝二^甲年 寅年 甕左五兵衛

長尾組石高・役高

- *前欠損
- 一拾三石七斗六升九合 新切分
- 引方ノ四百八石五斗五合
- 残七千七拾壹石三斗貳升 御役高
- 延宝二^甲年

御法度書

一正月七日ニ江戸^に火付御せんさく之儀ニ付^{ついで}而いそぎ我等共^{ども}松本へ参候様ニと御かき付参候。同八日ニまつ本へ参^{まいる}、御法度書がきうけ取^{まかり}罷帰候。同九日・十日ニかき写^{うつし}、一村一封ヅ、十日ニ庄や中寄^{よせ}、

①我等ニ複数型であるが、この日記では単数の意、我・私の意。
②御法度ニおきて(掟)。

延宝二
延宝四
延宝六
延宝七